

# 地域の実情に適した公共交通の実現に向けて

皆様のご意見などを  
お待ちしております

市内の路線バス利用者が年々減少しています（右図「市内の路線バス利用者推移」参照）。平成14年度には約138万人いた利用者が平成18年度には約89万人となり、4年間で35.4%減少しています。

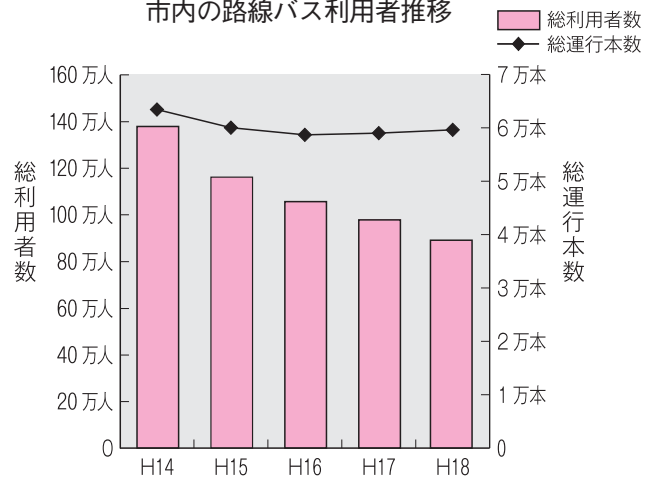
これまで、市では路線バスの運行経費を補助することにより、生活交通の維持・確保を図ってきました。事業者においては従業員の賃金引き下げや賞与のカット、退職金の上限引き下げなどの自助努力による収支改善を行ってきました。

しかしながら、利用者減少による運送収入の減少が事業者の経営努力を上回り、年々、事業者に対する補助金の額も増加する傾向にあります。

こうした中、路線バスによる生活交通の維持・確保が困難な状況となっています。



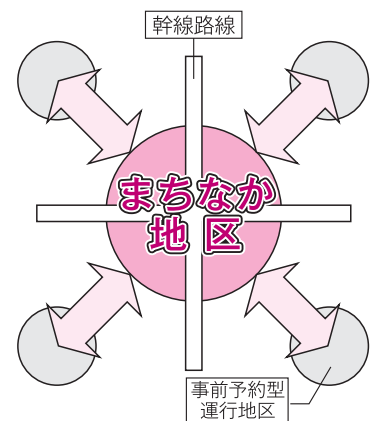
市内の路線バス利用者推移



本年度、今後の公共交通のあり方を探るため、市民・利用者の代表者、事業者、行政および学識経験者等から構成される「十和田市地域公共交通会議」では、市内路線バスの実態について調査しました。その結果、次のことが分かりました。

現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 路線や時間帯によっては利用者の大半を学生が占める。</li> <li>・ 朝と夕方の利用者が比較的多い。</li> <li>・ 路線の途中で、全く利用者のない区間がある。</li> <li>・ 日中、極端に利用者の少ない路線がある。</li> <li>・ 1日を通して、利用者の少ない地域がある。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市民の生活交通の確保および公共交通を支える事業者の健全経営の実現のためには、既存の路線バスの利用状況に応じた路線の維持または廃止・削減の選択を行うとともに、廃止・削減された地域ではそれぞれの地域の実情および社会情勢に適した交通体系の導入が必要である。</li> </ul>
方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 比較的、利用者が多い幹線路線は現状の路線バスを生かすことができる。</li> <li>・ 利用者が少ないなど非効率的な地域には、それに替わる交通手段が求められる。</li> </ul>

事前予約型運行イメージ図



今までの路線バスを生かしながら、次のような交通手段の導入が考えられます。

まちなか地区を中心に採算の合わない路線を抱える地区では、路線バスに替わり、利用者が希望する便を事前に予約する「事前予約型」により運行されます。例えば、買い物や通院に利用するかたは自分が行きたい時刻の便に合わせて、「〇時〇分発の便に乗ります」と予約します。



**予約の申し込みのあった便だけを運行することにより、経費削減が見込めます**

## 皆様のご意見などをお待ちしています

十和田市地域公共交通会議では、市民、事業者、行政の相互協力のもと、停車地や時刻、便数など地域の事情に合わせた公共交通の実現、平成22年度に控えた東北新幹線七戸駅（仮称）の開業に合わせ幹線路線を二次交通として活用することを目指し、具体的な方法を検討していきます。

詳しくは市ホームページまたは縦覧場所に設置の「十和田市地域公共交通総合連携計画（案）」をご覧ください。

縦覧期間 2月15日～3月10日

縦覧場所 企画調整課（市役所新館2階）、十和田湖支所、市民図書館

提出方法 3月10日までに、ご意見などを氏名、住所を記入のうえ、郵便、ファクス、メールでお寄せください。

〒034-8615 （住所記載不要）

十和田地域公共交通会議事務局あて

（企画調整課内 ☎ 235111 内線165・FAX 249616）

Eメール towada-kikaku@net.pref.aomori.jp